



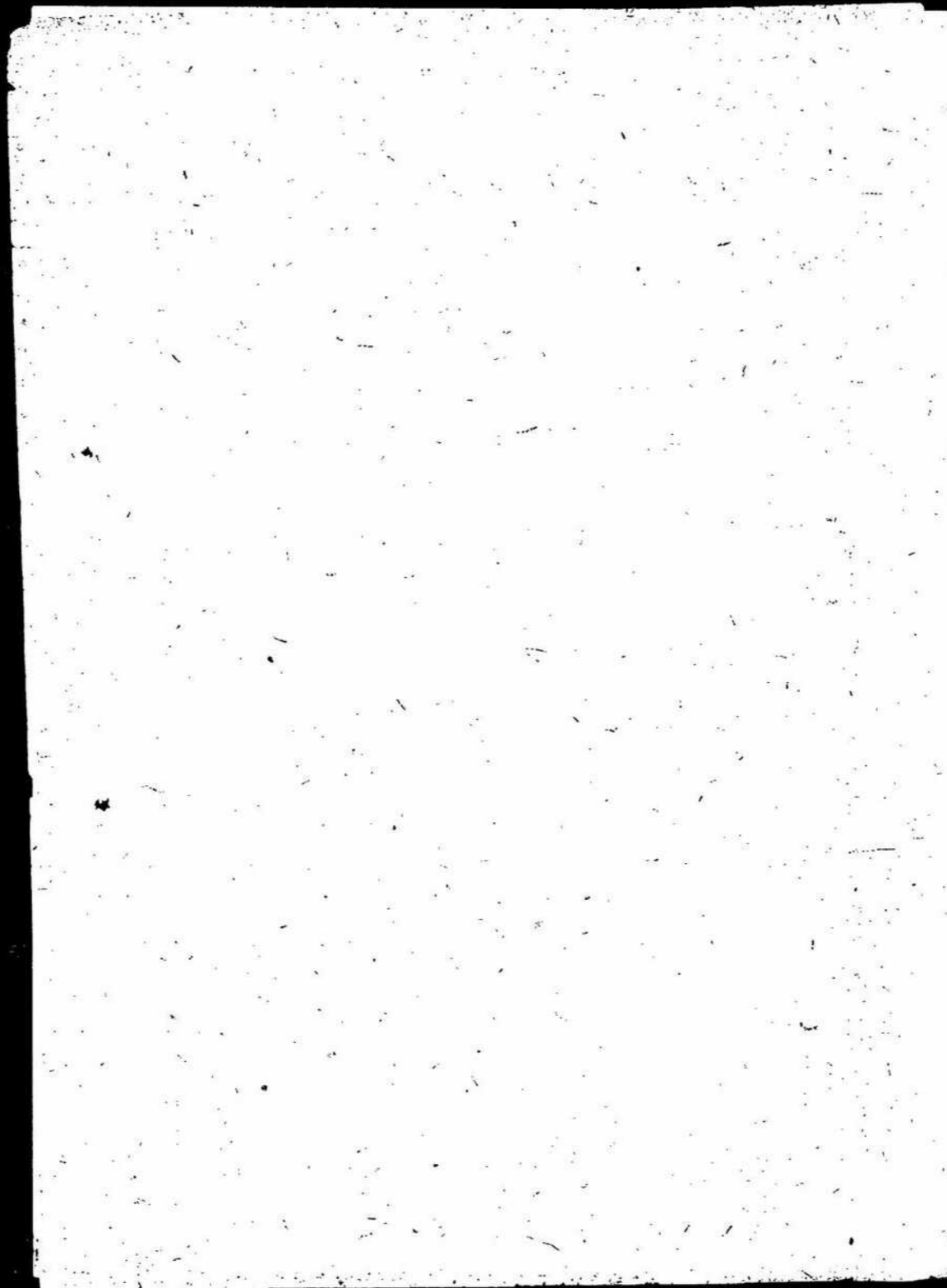
十
三
七

改
野
肉
魚

外
務
省

国立公文書館	
分類	持株
排架番号	3 B
	14-13
	④4911

4911



(年取三時三十分再捕)

○都村事務局長

滋野園係の人事統制に關しての説明を伺いたい

と思っております。取締役にありまして滋野

園係の人、元々取人の山形さん、元々事務部長のお原さん、

います。

○前委員長

本日は委員長と致しまして、取内同様ご協力排

除法が十四條に基きまして、滋野園係、本社、園係会社、

内閣

裏面白紙

る人多岐制を中つししつ關係を所説明願ソをいと思つておいて
 ったのいあります。申すまじもなソといソといますが、同法のオ三
 上條によりますには、事實の説明をなせる場合に虚偽の申すを
 さつをり、又は隠して申すをさつるといふことかソといますが、四
 則の適用があることとなつておりますか、この旨は予め所請承
 願ソをいと思ひます。

〇 浅野氏 私から申上げます。浅野關係ツニヒにフギおし

内 閣

裏面白紙

なるに、その内、多分、目(ウツ)る所、然(然)を、分(分)作(作)り、た、め、に、最(最)初(初)に、決(決)断(断)を
 從(從)命(命)に、亦(亦)ち、その、作(作)り、方(方)を、し、て、さ、し、て、さ、う、出(出)資(資)者(者)は、全(全)部(部)自(自)分(分)の
 子(子)供(供)を、い、れ、ず、使(使)つ、配(配)過(過)者(者)と、い、う、よ、う、な、こ、と、に、終(終)始(始)一(一)貫(貫)し、て、終(終)り、ま、し
 し、ゆ、い、よ、ん、初(初)次(次)後(後)一(一)部(部)は、日(日)々(々)承(承)知(知)つ、よ、う、に、事(事)業(業)を、承(承)継(継)し、ま、し、て、ま、し、
 こ、の、多(多)業(業)と、ニ、ク、多(多)業(業)と、同(同)途(途)な、あ、る、と、か、公(公)益(益)會(會)社(社)と、自(自)分(分)の、作(作)り、を
 會(會)社(社)と、同(同)途(途)と、い、う、す、と、か、い、う、こ、と、は、深(深)と、ん、と、絶(絶)也(也)と、い、つ、こ、も、
 ち、の、し、あ、り、ま、す。又(又)會(會)社(社)も、あ、り、ま、せ、ぬ、ゆ、い、自(自)分(分)か、つ、の、多(多)業(業)を、起(起)す

内 閣

裏面白紙

に参りましては精神的には此の法を以て「ヤエ」経済的には初代の安田善
 次郎「ヤエ」に参りまして、此の法を以て「ヤエ」の協力、安田さんの財政的援助
 によつて会社も賑はつております。まゝなるものはセメント会社が
 あります。これは浅野、此の法、徳川、安田というようになつて
 世間の資本を収めました。作つてついであります。今更に出る上
 の、これは全世セメントはセメントの独自の立場の仕事をしついで
 あります。浅野、安田、徳川、安田、世間の資本を収めました。

内 閣

裏面白紙

かつせのりあります。その後もすつとより形勢を豫めえとわかれ
 2、或は東洋汽船会社、或は埋立会社皆をの形式に、あやむか
 仕事と考えましとせしは、北前、安田翁の援助を得て新しい
 今社を作つて、作るに当りましは、磯野全資会社を以て株式會
 社の磯野翁一即に代つて株主になつてのいありましと、今社の創立
 の経緯のう言ひましと、初代の社長は、初代の磯野翁一即が占め
 從つてセメント会社と東洋汽船会社及いほあの今社とは、横濱の

内 閣

裏面白紙

送給は金銀をあげたつじあります。又紙の送給も、只今の申します
浅野社一と小あう人を出すと或は金を貸すとかいうような二
とはほとんとありません。むしろ時によつては逆に援助を受けるといふ
ようなのが実情をうであります。

斯様に改して参りました。借金の参つてものいありますから、お
は折金社が株券の押込につかうしは安田の援助を受けたい。安
田から金を借りた。幸に押込以上に株券の取りました時は、お小

内 閣

裏面白紙

を賣却して幾らかの借入金を減らした。このように形を造るに
 来たため、浅野社とは言ひ、既的の勢力は各関係会社に
 回つて皆無であるのみならず、従つて人的にはさうしても浅野社か
 ら関係会社に人を派遣したとしようよなことはよかつたのであり
 ます。自分の承知しておりますに範囲は、その点か、ゆづるアメリ
 カあるいは言つておきます既成とは違ふんぢやないか、さう考へるに
 するにありません。

内 閣

裏面白紙

同時に私の父が七くちりましたのが昭和五年にありましたが、當時
 は丁及井止大北大臣のデフレーション政策の最中でありまして、
 當時の浅野同族会社は非常な苦境に陥りまして、初代後一即が
 創立した株券の他打とを小を担保にして借りました金の類とが大
 變違つて参りました、非常な赤字を出してしまつたのがあります。
 ありますから浅野会社の苦境と務りましたは、どうしようもない情
 況の保全、利益が少くはその利益をどう借金の返済に充て、

内閣

裏面白紙

日本銀行紙幣B/C(100円)

行くか、又親類一同の生活費をどう接配して行くかというようなことに
 身命を賭しておられるもの、いわば大資本の執事——大家の執
 事の位を勤めておられるものがあります。それ以外には、人をどうするかとい
 うようなことはなかつたものがあります。又やろうとしたものは
 かつたものがあります。高い給料を拂つて有能な人を雇つて、それには
 上配をさせるより、本関係今般どその人を派遣するといふことは絶
 対に當はひきまかつたもの、その点から申すと甚をお恥しい次第に

内閣

日本原簿製法 15 (1917)

裏面白紙

ありまうげトハ、歐國ハハキムツモのぢやないかと自らは思フの
ありまうげハ、その上はハハキムツモのぢやないかと自らは思フの

とウイフようま生まじきハ、そのハハキムツモのぢやないかと自らは思フの

任かまじきハ、その後は父はハハキムツモのぢやないかと自らは思フの

ハハキムツモのぢやないかと自らは思フの、その後は父はハハキムツモのぢやないかと自らは思フの

ハハキムツモのぢやないかと自らは思フの、その後は父はハハキムツモのぢやないかと自らは思フの

ハハキムツモのぢやないかと自らは思フの、その後は父はハハキムツモのぢやないかと自らは思フの

内 閣

裏面白紙

総一郎はセメント、私は鉄、私の弟は水力、又その下の弟は専ら掘
立とソウのように、今之を形に成つておりました。その形爲は過去年
を過ぎるに参つて次第であります。

従つて余余社の歴史を所望になすは、浅野東社から滋産、その歴史
彼とソウものは、おそろしく、又もおそろしくあります。なましく、ソウく
の關係が、或は銀行から来た人もおられます。又余社合併の結
果一緒について来た人もおられます。浅野東社から来た人

向
閣

裏面白紙

一 本社の支配と受けとらうと云ふことはなかつてもうみまらぬ、言際浅
 野中社としてほつてけの力はなかつてもうありませう。先刻申上げま
 すように、浅野中社は浅野同族の会計役、執事の役を勤めらる
 ちと云うこと、一番多い時は社員百十数人、しかも小さい時分
 から中社にあらはる人も人違はやつをようちわけはありませう、配当と
 借入金の利息が常はうまく行つておりませう、一昨年のは
 中社にもう解散せしませませ、給料も実は拂えないうちを次第に

内 閣

裏面白紙

ありますから、解散をしないで、その後の事務は過去、浅野におつて
人達の好意によつて今日まで事務をとりまわらふと云うことになつ
ております。

三木が大伴、浅野、中社とは人をもうかみと云う正作はあります。

手分時間を取さまじし小いも、至極簡単で、いゝと小以上申
上げるとは、善はまいと思つてあります。あとには、官同のあり

おしませうば、自分の知つてゐる範囲のこととお答えしたと思つて

内 閣

裏面白紙

しちみつをのりす。當時私も非常な弱りましき。若し強健を得た
わけがありません。

その後多少の順調は参りましたけれども、浅野市社としましては

おのれが一人も配当したと云ふし、この状況であります。現在

の株價は言つてもどうもありません。私の手を引きました時は約

八千万円くらいの借金がありました。有價証券の価値はさつと下つ

ておりました。どういふ状況であつて、利源社の人事を支配する

内閣

裏面白紙

U.S. IMP. REG. 15 (FISHED)

とか、人を派遣するとかいうことは、つきなまつもつてありませう。それ
 つまづ、浅野東社が持つておりました株券の割合といたうは、
 セメントは相場のついでに、あとは大抵割以下です。おやちは
 任るかしをいのちあつて、株を持つていのちやない。なまよく少しの
 株を持つて金計に任せてしようというところに行きましたと、
 既婚の支配もつきなまつたという次第であります。二小の無償の
 いう、サウソンの高層の仕方はなまつたかと思つて、
 従つて

内閣

裏面白紙

今日も赤字像さといふ状に相まつております。

ちか又秋の申しましたことい、申し足りなすもあるはうと

思ひます。えと配人をしていふおりましたも山形君、さ小あら木

常君も見えたりますのい、質疑がありましてさう補足の説明

を致します。

○

要山形氏 大伴の今、渡野良三さんの言わすをワに世帯同連のニホ

ソまさん。エッ附加えますと、四人の男の御見弟か、先代おそくちつてから

内開

裏面白紙

仕事を皆水くつ分を引継いそといふは、非常にまいたく
 りすけ小いも、お互に連絡あつていくと相違しそやう小くついなく、例
 えは、良シキ人は鋼管のニとを専念する、総一郎氏はセメントのニとを専
 念する。と、向にもしも利益が相及するようそ、ニとあつたは、むしろ
 相違はきくし、良シキ氏は鋼管のニとつきを考へる、総一郎氏はセメント
 のニとのみを考へる。と、向に場をとうけ、ちよつと勝見ると、或る人
 りすけ、対するような関係におかすつと、束をわけ、ちよつとあり

内、一箇

裏面白紙

ます。このあらうなか、成野車社の社員は、今社の任事としては安田
 の借入金、又手形の書控とか、配当金等の整理とかいうこと以外
 にはあまり用がきくこと、むしろ社員としてやることには、個人として
 例えは子供の物気さるとみ学校へ入るとみ、そのラニとの用が作
 多かつたゆというのをお察のしつがります。ちよつと蛇足かも知れ
 せんけれども、今話を聞かして気が付きましたをあら申上げます。
 ○ 宝岡安貞 ちよつとお尋ねしますか、同族は大正七年の事か。

内 閣

裏面白紙

初回は念今社長ののりすか。

○山形 今貸金社です。

○平岡 浅野社にちつをうはっ。

○山形 本社にちつをうはるが、六月十九日のつぎに、

才助は浅野同族は解散致し、^{（カ）}清算中であつたのいふが、

一俵浅野同族といふものは、今申上げると、不況の時か多かつても

うすか、あま銀行の借入に對する利息が配当には拂えなかつた

内閣

裏面白紙

が多めつてくいます。差額はみんも手形になつて元金か加わつて行くといふ關係で、税務署の方の關係でも、これも今社が成立をいよいよ
 ちと二つより行つてしまつてのうちに、もう一つと今社が自己
 破産しようとなつて存在が少なくなつていふ、何とか辻褄を合せ
 こつたといふ事もありました。しかもどうも二つもなうちくちうで、
 昭和十四年かに解散して、そのまゝにあつてわけです。

○平岡委員 昭和十四年に解散したといふ事か。

内閣

裏面白紙

○山形氏 浅野同族はそうす。資本金三千五百万円とし。

株式会社

○平岡委員 合資会社浅野同族が株式会社となりは、

ついでか。

○山形氏 大正九年にす。——と、浅野市社がひきまじは、今

申上りによつて、浅野同族株式会社が解散しました時、又

とその後、むしろ銀行の借入の方が株式よりも多くなりました

マ、イ、ス、ク、ま、い、を、わ、け、い、す。と、ま、か、を、く、株式の回復によつ

内閣

裏面白紙

○ 浅野同族会社の清算中の財産が千五百万円くらいプラスと成つたもつ
りから、その千五百万円を資本として浅野株式会社創立の許可を
得て創立したのをあります。

○ 平岡新造 とうとうと昭和十四年に解散をさめまし、あつと清
算中であつたのをいすね。——そして十九年六月に千五百万円を以て浅野
株式会社を新しく立ちました。

○ 山形氏 とうとうと浅野同族会社の債権債務を引き継ぎをいすね

内 閣

裏面白紙

ニとにちるすのひす。

○山田新良 同族会社とて、中社の内規との定款はありませぬ。

○山形氏 定款はあります。内規とソウのはほとんどもソウです。

○浅野氏 あまりむづかしい会社は、いづい内規はあります。

○山田新良 お集まりは月に一回々ういひす。

○浅野氏 ソレ、年上回の一回、中社に必要が、ちけ小は、今少きソウ。

親族会社のみをいふものか。

内 閣

裏面白紙

○山田君を 河惣族が果敢りにする事は ちかづきの事である。

○浅野君 之、あやぢかなくさつてからはず持にさういす。

○山形君 皆人か浅野同族会社というものに対し、ちかづきも聞か

ないの事。というは一之の収入もさういふ。一 本社の後い手あは出し

たしをけんいも、そは一 例えは名三さんあう言うと、銅管会社

から出てもいふ。いふとさういふ、銅管会社はたす切か本社は

どういふの事というわけは聞かぬ。かまういふ事。重徳会とさういふ

内 閣

裏面白紙

と掛えなくちつをからよしせのりず。一年くらひ掛つていしよふか。

○おんが ほんきりしたに惚ほまゝが、ソトくらひあつをかも知れぬ。

○陽杉あま 浅野八郎やえといふ人は、ソノ人か。

○山形氏 関東水力の社也いす。

○陽杉あま 何年頃からいす。

○山形氏 先代か七くちのちの陽杉五年の事か、あふからう金程

ちよふからいす。三四年ちよふからいしよ。

内 閣

裏面白紙

○ 木原氏　いせ、ちと……十年くらういぢつ……

○ 脇村氏　と小太は？

○ 浅野氏　浅野總一郎は？　八郎は専らお茶屋……

○ 脇村氏　兄さんの後を継いで社長にならうかなのさすね。と小太は

弟さんの埋立会社

○ 山形氏　今東亜汽船工業といつておられますか……

○ 浅野氏　いすか、おやぢの作らなものを全部一人の背負えをりから

内閣

HA-SUMI 17 B5 (J-13117)

裏面白紙

兄弟が分担したと云う形です。

○ 藤村重良 義夫ははやり地主。今社の社長です。

○ 浅野久 社名は暫らくの間後一即久かやうにありました。や
げり十年くらゐ、たまにしかから義夫に移つてわけです。

○ 藤村重良 とうきよるとある時久後一即久はソコを今社
の社長をやつておりましたね。

○ 浅野久 今本に書いては、おやちか死にすしたのか、昭和五年です。

内閣

日本国史館蔵B6-14行書

裏面白紙

当時不況の中、救済が死んた、どうしよう。この際、道場を
 人に社世にもつ、世にまっ方をい、のちやなひかとい、徹御もあつてか
 そとぢや混入するからとい、のい、安田銀行とも相談して、取り敢えず、
 一部は後を継いで貰って、あと有能な人を個々に持つ、をどうするか
 という事になり、漸次は替える行つをわけた。ひすあう、個人クムとを
 言ふといふかと思ひます。ほとんどのボツトビ、と、社世にあるといふ
 切けのあつて、のいあります。

内閣

日本銀行規程第114(1)(5)

裏面白紙

○ 藤村新良 例えはセメント会社でございませうと、その上はつりて給一即人様！。

○ 浅野氏 その上は別な事。社員でございませうと、セメントは専念してございませう。

○ 中セメント統制会がございませうと、その方に行うにございませう。固は社長を止め、
おつち。

○ 脇村新良 そうするとセメント会社の人事にございませうと、見とございませう。
小のわけはございませう。

○ 浅野氏 見とらざるにございませう。

内閣

日本標準規格 B5 (148x210)

22

裏面白紙

○陽松新員 日中鋼管に付いては

○渡野久 日中鋼管は形が見えおつてのいす。しかし事業におりては

白石え流即かやうであつて。モロと（はちまうとあせま）は流すか白

石は砂の掃きおとすつてが東洋汽船の任をせしめつて。その時、東洋

汽船を見限つてわけいししよらうか、自分としし鋼管をやりという

のい、東洋汽船におる時分、明治四十五年に秋のころにさいます。その

時におやんあ、あんなむつかしいものはよせと言つてのいすか、自分もやり

内閣

裏面白紙

本方と云う、東洋造船株式会社と云うして鋼管合社を創立したの如く。

従つて鋼管を創出した時は、おやぢは千五巨株しか持たなかつた。むしろ

出澤さんとか大川平三郎、太田清光といふ人がおやぢとちつて鋼管合社を

作つた。と云ふおやぢは、胸を曲げました。白紙おやぢならは俺もやると

と云つたおやぢも、鶴見製鉄、鶴見造船がであります。と云ふか

と云ふ鋼管合社からスチルトを買つたことある。と云ふおやぢも、

く、結構訴状になつて出澤さんと仲裁して貰つて納まつたか、片や

内 閣

裏面白紙

おやぢ、片や見さという田に非常な喧嘩をしても。と小以来自石と
 女にも仲が悪いくら。と小の自石としは一生の事業としはやつまの
 2、日銭に引違しをいという時に、実は誰か止男を自分の後
 産にしまつた。と小は誰か止男に交際した。先づ日銭に色気があつ
 2、日銭に行つてしまつた。と小は誰か止男のときと、廻つて来た。と小は
 和十五年の暮に存儲し、一筆字と和が別社長をやつておりました。と
 後社長になつてやつたか、あつた人、つたあつたあつた、あつたあつた

内閣

裏面白紙

とトイも人事は悉く白紙に相談ししやつものいす。ニハ全銀浅野
布莊と日圓係をレトヤつをのいすかう、あの表を所覽にちよと浅野か
ら行つて人はほとんどのありまをん。

○陽村新良 ともすると銅管の人事にっいは、あなたと白石さんとの
合議いやつてあらトエのいすね、現在まひは。

○浅野氏 白石さんは三筆の表をいせきとおつて、私かよしとつは
三筆四月三日かすかう、私かあつたつものは四月のす。

内 閣

裏面白紙

明船支那子といふものなり。

○陽村新造 漢野製鉄所と合併したるは、

○漢野氏 十五年暮る。

○陽村新造 とうすると日中鋼管の人は、ついでに、おそく合併制とい

うとと合併して直しのすか。

○漢野氏 表面は合議か、知小な、け小いも、事、まは、
おんが、い、ま、し、す、か。

○陽村新造 とうするとその中、日中鋼管の白紙と人のす。

内閣

裏面白紙

こし小を方と、よ小から淡野まの製鉄所にかきこたを方と方か一緒
にをつてわけいすか。

○淡野氏 解部は銅管会社の人か多か。

○陽村氏 淡野八郎のやつてかうかと同東水カレすか、あ小は

○淡野氏 二小は群島にあるやつてす。

○山形氏 今月送電に行つておりました。

○淡野氏 送電の所から手を引くときと、高田さんかありまして、二小

内
閣

日本標準規格 B5 (148x112)

58

裏面白紙

は昔からあやしが水利利用の水利を利用しようというのじ、あやしが潤雪し
 こしして五ガギロの灌漑路を作つたわけです。一時中川さんが東京市長時
 分に市が買収することになつて、えらくお開きの問題になつたことがあつたが
 こゝは別に致しまして、こゝしこゝもうやうな人あつたらう。——永は古時東
 洋汽船会社をやつておりました。足首はセメントをやつておる。こゝし
 お前つ水力をや小というこゝじおやぢか、八郎を使つたわけです。こゝしこゝ
 統ソとあや系統をやつたわけです。

内 閣

裏面白紙

○ 陽村新員 今更なるをこの人新大伴、最初の社長になつてお
うす。又目録一節さんとい。

○ 浅野氏 二又目録はとんとるに關係しをみづをらす。

○ 陽村新員 すると八郎さんか切廻してあつたと禰解していいのいすね。

○ 浅野氏 え、但しよくを仲間かかりましたから、なみく八郎はか

リでもソかまいた、例えは大塚の山柿一三さんの氣位、東多智燈の氣位

味々八郎の細尾の若尾の娘ひすあう、むしろ浅野というよりもある

一内 閉

裏面白紙

電燈系の勢力が強い。又とうとうびるを揚ちいのは、あすこい覚悟して
ものは全部東京電燈に買つて貰つた。それと野村孝さんとこの人が
勢より別社をこしらへて来た……

○ 野村孝貞 東京電燈に立つ方は？

○ 浅野氏 上は安田と浅野の合併の業がこいひ、ふやちかまらやつ
こつちが、安田さんとあやちと東京電燈を測量して案を打つて上げ
のいす

○ 野村孝貞 どうすると人事は浅野と安田とつ……

内 閣

裏面白紙

○ 浅野氏 最初はとうむすね。

○ 陽村氏 近年はとうむすね。

○ 浅野氏 近年は浅野の關係もなし——安田のたけ。最初香

くやつものは藤井さんです。あつ人のアトのアイスでいさくち人をとつ

たえあち。台湾の知事のお師のあつを園さんとらう人のあつのアリス

のうとらう。さあらう園部を即ちとうあつあつ都のお師のいさくちをうい

う人のあつをいさくち。

内閣

裏面白紙

○陽村新屋 ぬきまはきつりの方は？

○浅野氏 手取係復ひす。

○陽村新屋 従直念には？

○浅野氏 小舟出ます。しめし出ても何も念分とないといふことい— 東

三港の方は非常には技術が大なるもの似あう。人事は今の園、園部

といふところかまはやくせりす。

○陽村新屋 東洋造船は昔浅野さんかやくしあつたりすか、後とは

内閣

裏面白紙

どうもつていまして。

○ 浅野氏 安田の引受けも。社債の拂えなくついで。

○ 社債の株券にきつていふ。その結果安田の大株主になる。

○ 陽村秀吉 一時引くついでに航路の郵船に行かされたね。と小川外

○ 郵船の引受けは、その社債を安田銀行が持つてかういふ。と小川株

にきつていふ。

○ 浅野氏 安田は、南米航路と露尾航路、そのほかの貨物船がある

内閣

日本郵船株式會社(1911年)

裏面白紙

だが、一番初めは露港航路にす。と小あゝ貨物船と進出し、と小あゝ
 南米というところには、非あゝを況か来た。と小あゝの運信
 大屋を達さんと井上渠之助、御城之助の三人が心配して、到底あめ
 切やもソム、とソウとミソへ、優秀船を日々か作らさけりはあゝん。
 とトは郵船と南洋汽船が太平洋を多しはソあん。別の航路を
 松めには政府が補助し、やるとソウのいひきとりの浅野、秩父、
 船田、ニツミ船です。との結果南洋汽船の露港航路と南米航

内閣

裏面白紙

船が船に付く。残つたものは貨物船十杯位かと何千円内の借
 金、と小の掛えをいひおやち投け出した。として社債が株券に及
 ぶ、と云うし安田が大概をこなつた。株は安田の方かすつと
 多く、今社の支配権は向うに移つておつた。安田としも主幹の
 安田の人が来ちかとうか知りませんか。私の暫うくの向おやち
 後、社名をいひおつた。とその後高橋勇というのの身代り切通
 しとおつた。

内 閣

裏面白紙

○ 陽村委員 人事はつりこぼす、

○ 浅野氏 人事は高橋の事。

○ 陽村委員 シツ場合には浅野さんには？、

○ 浅野氏 全くの口ホツトです。

○ 陽村委員 口ホツトというのはめくら判を押してというのですか。

○ 浅野氏 判を取りに来るの。ま、總會の株を1000枚めくら判するの加配の

役シツて。

内閣

裏面白紙

○陽村新良 とうきつとともつづの人事は為橋勇さんばらうりうわう
トして決定したるなりや。

○浅野氏 大伴は若く人を使ひおりました。東洋汽船生え板やう人を。
○陽村新良 しかし童役は？

○浅野氏 童役は うまのう入つては私ぐらいか減つていしよ。

○陽村新良 ほあの人は入小替のものをいすね。

○浅野氏 最後には若原といふのが、小村さんの婿さんか、高橋か

内 閣

裏面白紙

死んだからほろろ人が……

○陽村新助 とうはとういう事候い未エのりか。

○浅野氏 とうは初も分りませんか……

○陽村新助 安田さんの事候いもなりのりか。

○浅野氏 そういもなりのりか。——とうあうま非の株を持ちました。

とうあまうさつと買つて。とうあう合併後はわたくしの方はほとんどは

とあせをかつてのりか。

内閣

日本国憲法第 115 条 (内閣)

裏面白紙

〇陽村新島

とうりつと高橋まは安田から北邊さへ来て、大伴は

金樽を持つておつてのいすね。

〇浅野氏

とうりつ。うごまの行く前と安田から高野正三という人が

おつ下に来まして、これは三井におつての結城豊太郎と福井徳三郎

と相談して高野というのに来たものいす。これは三井の支隊のよるはるか

が人のいす。とうりつ郵船と東洋汽船の合併まで持つて行くものいす。

ひすけいともおやちをかく承知しおせんね。子供をあやそうものいす。

内閣

裏面白紙

27しよう。夜中に井上さんの所へ呼びつけよう、困った、か、どうしな
け小は田中もめえとんと言わけて……

○ 陽村直 とういう時はあなをもとに参考書さなつてのいすね。

○ 浅野文 一緒にくつろいに行のをけ小はなうんのいす、喧嘩をしまい

トウに。実力は持つていませんよ。しめし介添でついで行くのです。あく

ソウ人の方がう作事には強いのです。ま湯か。——安田さんいほむしう

あふと引受けよということは作事を有難迷 取つてつとつしう。とに

内 閣

日本原典見録 B5(144頁)

裏面白紙

めく三千万円の社債が拂えまいの恐れあり。毎理會作に株に取戻え
るようものむ。そのめく増資をし、増資をし、いさくまことかあ
るが、今後はどうなつておられますか、私よく分りません。

○ 東洋鋼管 田中鋼管とみ浅野セメントとか、その他ソウヤ、浅野の

純正物と見るというおのりも、今社への、浅野同族並に社社からの

出資の割合が非者に少いよういずか、田中鋼管とつぎましんけ、

中港におきつておられますの内者かよく分りませぬ、その他セメント、

内 閣

裏面白紙

小倉製鋼というところを対する関係は、いろいろ書類はひきこい
ておいてあります。

○ 水野氏 言いつけましても、ひきこいしようね。御承知のように形も引退
命令を念つておりましたから、全然関係しおりましたか、山形県あたりか
ら言えば、レポートはみんなありますから、ひきこい思っています。——申しつ
けましようか。

○ 葛城氏 簡単に事情が分る程度でいいですか。

内閣

日本国憲法第 66 条 (内閣)

裏面白紙

○ 陽明社員 安宅をばセメントには、即肉作は

○ 渡野氏 ありました。事務から副社長を暫くやつておりました。

○ 陽明社員 土佐所令見と同じ暗代に、

○ 渡野氏 そうですね。つまり東洋汽船がなくなりました。セメントの方

を多少強化する必要があるというわけ、初代の渡野翁一が社長で、

土佐から渡野社三郎というのがある。土佐の事務、土佐下の事務を私

がやつておつた。土佐から事務になつて、副社長になつて、肥後で事務を

内閣

裏面白紙

日本経済史料館 B5 (1冊目)

辞めました。よし、よしとあう惣領合社の方の社長にまつて。今の事業

分担命令いす。

○ 磯村新良 事業分担をなさつてのには何年頃ですか。

○ 磯村新良 昭和十一年前後にす。

○ 磯村新良 といふ当時のいろ／＼を事情をいふしようが、即相談の上

になさつてのいすか。

○ 磯村新良 といふす。といふ極の連絡がうまく行かぬのをいふ傍

内 閣

裏面白紙

みづ見小は...

○山形氏

もうつ形あう申上げますと、言ひては鋼管の社長さんへ

すか、関係金社と方々関係しおりました。又後二部はセメントの社

長いすか、二社も方々に関係しおりました。二社は、セメントと申しとくソの

かみ、ヒラチめとソうと不足び得か自始つした。大しと金社にはなつか

靴洲さるとソう取小とソウのい...。ほと人の仕事には関係せず

望後身にもあらずをかソうよと知らなソウのい...。とソウのい...

内、開

裏面白紙

○ 会社の数は少ない人多く関係しおつてよい感じがいたします。

○ 浅野氏 不景所得という方も不稼者と思つておられるが、要するに

一ツの会社を多持つていふことも、なめく／＼ほめへは出さずよいのです。

○ 山形氏 しかし当時会社がもうよくなく、大した報酬も掛ることも

なから、お十月づついも十社程度は五百円にもあらず、そのうち関係

もあつても思ひますか、という感じがする。

○ 浅野氏 といふはあつた。

内 閣

日本経済史資料 B5(十段目)

裏面白紙

○ 福田安貞 銅管はあちちの後作とをきかやうしおろすのりす。

○ 成野 氏 和の後には渡辺正人というのが社長になつて。その後は銅

管生え振りの人が、営業部におりましたか、一番通任のつてもい

ちあう渡辺氏と社長になつたか、その間遊放にかつてしよしよし、現

在はほかの人がやつておりました。三代目です。白人に若い人があつても

のりあからかたをきかやうしおろすのりす。

○ 福田安貞 とうとうのは大伴中の生え振りの人があつて、いつのりすか

内 閣

裏面白紙

○浅野氏 とういす。現在の社長、常務、みんを生え振す。学校

卒業しす。銅管会社とつて人の事。

○徳田新員 白あうあまをの時代、ソノカドも同種らしいと云ふ。今は

ほとんどの事くなく、ソノ事。

○浅野氏 ほんの事、何、この浅野が、ミという名前があつて、その世間

には、その事、ミも知らず、その内、その事、違ひ。銅管会社の株を

というは、保隆会社の一番多あつて、その事。梅田株と、ミの事。

内閣

裏面白紙

○ 福田新造 小倉製鋼について何か承知するとはどうか、伺いませぬか。

○ 渡野久 小倉のはど人なるとかおしおるか知りませんが、あれもあや

ちか買ひましてもね。東洋製鋼というワイヤ、ワイプの会社を四国つて

のす。初めはたしか千五百万円とつても思ひます。いろいろな人があつた

二、渡野としてはあつた時、割の多割持つておりましたらう。しかし實際

の権限は未必要といつたかやつておりました。未必要におや切もあつたり

けんめん、お前勝手によいとつた、お前勝手におや切もあつたりました。

内閣

裏面白紙

○平岡新助 淺野市社と入つておられと藤澤正士と入る人ですか、この方

おけが同族の關係のちかく役員に入つておられますか、この方關係のちか

○淺野氏 ちか非難に長く勤めると小ぢとソウのい、むしろ金銭上よりも

目上まつ世つち方か、い、ちやちいかとソウのい、まつ世つちのいす。

○平岡新助 同族と長く勤めるといすか。

○淺野氏 ちかういす。もと浅野銀行におりました、同族か借金の断りや

ら、余借りもやうのに無理に頼んでおりました。——今申上げ

内 閣

裏面白紙

ちように渡洋社といふのは、秋の御座のたきちものいすが、何とか親族
 御かりのまゝ、布あつ任業せしむ置つていふ人と、運任にあつて置つてい
 ちやさいかといふじ、ちつと置つておいた。それめら、ニホはわたくし取
 にもよめも、おれまふんが、各會社にわたくしおやちの息子の入つたと
 いうことは、初代の渡洋社に印はあつた人いぢめ、わたくしおれ
 ものいすから、わたくしか向に入つて取持を役にあつてとつたといふも
 ちやう金計にあつた。

内 閣

裏面白紙

○杉本 浅野物産は相方に深い関係があつたといふ。

○浅野 浅野物産は実質私創を創立してあげたが、アメリカに

J.P. クレースとイラ合社があります。それと共同で五割五割で

創立したといふ。ところが資本金百万円の合社が七百万円の増を

した。その増分は大きくない。 スリヤ 如漢水、鈴木高次郎と

いつか時、うんと増をした。かやちには大目玉を食つたが、そこはかや

ちの好きといつて橋本梅吉郎という福島の田舎がアメリカで永年やつて

内 閣

日本経済新聞社(1941年)

裏面白紙

尺の寸方とはいつも開いておつたのである。そのグレースとの関係も
 絶ちました。借金を返して橋本尺の大株主になつた。不幸にして昭和
 十一年に死にました。その後も、私も創立當時からおつたニ京新と
 いうのが別社長のおつた。浅野物産といつて、インテリイには
 浅野錦一郎がやつたおつた。人事その他は橋本尺、ニ京尺が
 やつたおつた。橋本尺も、ニ京尺も、世間をのたまう俺がやる
 ことと言つて、何とも融通がきかぬ。とらいう状況おつた。

内 閣

裏面白紙

○平岡新造 山形主人も本所さんもおつと最近まじ浅野車社の方の
お配人又は総務部長の事か。

○山形氏 どういふ事か。

○平岡新造 總務の下に総務と計理の事か。

○本所氏 総務が三人、計理が四人のうらうら小人取ります。

○平岡新造 何年か、さういふ事か。

○山形氏 浅野車社の事か、このが十九年七月の事か。このときは

内閣

裏面白紙

藤堂氏の支配人としての下は、移めいとの、藤堂氏が重役になった
の、移めいの人に昇格した。翌月の翌月。

○平岡委員 どの方から本社にお入りになつての。

○山形氏 前はやはり浅野同族トツモの。

○浅野氏 山形氏は浅野石炭部さんと、いつを時代から居るの。

○平岡委員 浅野氏の事務所は？

○浅野氏 海上ビルです。一番初めは日本橋です。永代橋のそばの

内閣

裏面白紙

日本経済新聞社(株)印刷部

今倉庫にまうしいますか、まにか榮祥の世にま。

○平岡新良 一部屋か二部屋のまか。

○山形氏 事務は一部屋のま。

○平岡新良 会合をいまふまの時けー工業クラフの何ありまか。

○浅野氏 同族会社ありまか。

○平岡新良 え。

○浅野氏 海上の取らするまは海上の取らするまありまか。海

内
附

日本銀行 昭和十一年四月

裏面白紙

ビルドメント会社の社長を兼ねて、その任用し、ヤフコのおつてか、お
ナニと進出さすからには、後継者も会社もなくなつてしまふ。

○上田専員長 大伴、三小、並、うの、お、い、ま、す、か。――お、は、い、う、も、有、難
う、お、い、ま、し、た。

○山形氏 三の、概、念、を、も、と、う、と、言、申、上、中、で、お、き、き、い、い、ま、か、あ、る、の、い、ま、か、
を、い、は、し、ま、す、と、は、南、信、の、ま、い、い、ま、い、あ、り、ま、す、か、三の、南、信、信、合、社
の、B、理、に、指、定、さ、す、と、中、に、井、岡、製、鋼、と、い、う、の、か、あ、つ、て、七、十、万、円、の、小、さ

丙 間

裏面白紙

日本標準規格 B5 (148x105)

な今社にすぬ、ニト公日布セメント人あと同列に入つてゐるの事。元
 は浅野重和と名入にも関係の事イマツた、エロ浅野重和即代かいくら
 の梯と持つるイモという関係に而指定を受けたりあります、七よつ
 とニの機令と皆さんの中上中かおきとひと思ひます。

(年名三町三十分休想)

内閣

日本銀行記録部(1917年)

裏面白紙

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

外務省

